



鳥見の記 散策の発見

第7回 秋へのプロローグ

2018.9



ブラリーマンも人なみに夏休みをいただきました。「鳥見の記」のサブタイトルを「～発見の散策～」に変えて気分も新たに、徒然草ならぬ“徒然鳥”にして綴れたらと思います。

今年の夏は、地球温暖化が進んだためなのか体温以上の気温 40℃の酷暑日があったり、激しい雨・風の台風に襲われる日々もあたりと異常気象に見舞われました。それでも 朝夕過ぎしやすくなり日中の暑さが多少和らいできた日々に、里山的自然が残るみずき野とその周辺で鳥の声を聴き、その姿を観ながらのいつもの散策にでかけます。そしていつしか、木々の色変わりを楽しめる感傷の秋となり、改めて四季の移ろいを体感し発見できる日々になりました。



農作業中のおやじさんに優しく見守られ、餌を探し回るアマサギの群れ

黄色く実った田んぼでは、稲を刈るコンバインが動きだし、チュウサギやアマサギの群れがその後を追いかけて、飛び出すイナゴやカエルを捕らえる一瞬の光景と田んぼを飛びまわる風景が観られる秋になりました。今年は、秋の風物詩として、両翼を広げて空を舞う田んぼのサギを順光あるいは逆光の構図でぜひ写真に収めてみたいと狙っています。サギ達だけでなくこの時期、スズメの大群が実った稲穂から飛び立ち遊ぶ光景は、のどかな田園風景の動画を見ているようで、いつまでも見飽きることはありません。



電線で一休みするスズメの群れ



金色に輝く稲穂の田んぼで戯れるスズメたち

9月は、鳥類の渡りの季節で、巣立ったツバメが親鳥と共にいつしか気づかぬうちに暖かい南の国に向けて飛び立っていきます。晴れた秋空の中、運がよければサシバが上昇気流に乗り西の方向に飛び去る「鷹渡り」の「鷹柱」を第2調整池の堤で観られるかもしれません(鷹渡りや鷹柱については、[第5回「みずき野周辺のタカ類」](#)の鳥識③を参照)。また、小貝川の河川の中州や稲刈りの終わった田んぼでは、春先に見られたシギ・チドリ類のタゲリやキアシシギ等々([第6回「みずき野近郊の水鳥」](#)pp.2-6で紹介)が観察できます。

8月末、守谷の秋のシギ・チドリの調査会(日本野鳥の会の要請)に参加しましたが、残念ながら時期が早すぎて観ることができませんでした(稲刈り後が最適とのこと)。その後、渡りのシギ・チドリを観たく、船橋市の[三番瀬海浜公園](#)まで行って来ました。夏を思わせる海風がそよぐ干潮の浅瀬と潮だまりの中、双眼鏡とカメラを携え飛びまわって半日過ごし、10種類近くの鳥を確認でき大変満足しました。みずき野とその周辺で観るよりハッキリ、大きく観られ、「宝さがし」のバーダー気分を久しぶりに満喫し、興奮しました。表紙の写真は、その時に撮った三番瀬海浜公園の潮刈り海岸でのアジサシの群れです。これらの他にもダイサギ・ウミネコ・ウミウ・ドバト・カラス等が浜辺で遊んでいました。



キアシシギ



ダイゼン



オオソリハシシギ



ミユビシギ



トウネン



キョウジョウシギ

なお、ここではアジサシは10月中旬頃まで見られ、冬場には三番瀬の代表鳥といわれるミヤコドリが観察できるそうです。冬場のカモ類の観察にも適している場所なので、一度行かれるのも一興かも！三番瀬海浜公園には、みずき野からは電車で一時間半少々で行くことができます。

さて、田園の稲刈りの光景が一段落し、みずき野の桜の木々が色づき枯れ落ち始め、朝夕に肌寒さを感じるころには、アシの茂みや林縁から冬鳥のアオジ（ジッ・ジッ）やビンズイ（チ・チ・チ）の地鳴きの声が聞こえ始めます。そして夏まで青々と繁った枝葉で、鳴き声はしても姿の見えなかった留鳥のシジュウカラ・メジロ・コゲラやエナガ達が混群で現れ、葉を落とした樹幹からその姿を見せる鳥見発見の季節になります。

以下の写真はすべてさくらの杜公園内の林縁と外苑のアシ原で観られる鳥たちです。



アオジ



ビンズイ



シジュウカラ



メジロ



エナガ



コゲラ

10月頃には、葉が枯れ落ちた森や林はバードウォッチングに最適な季節になります。ジョウビタキ・カシラダカ・ツグミ・アカハラ・シロハラ・ヤマガラ・シメ・オオジュリン・アトリ等々が観られ、守谷城址公園の守谷沼や池でも冬のカモ類が観られるようになります。「鳥見」は、昨日より今日、今日より明日と、日に日に目にする鳥の数が増える「発見の散策」になること間違いありません。

もちろん留鳥のカラスやスズメ・キジバト・ヒヨドリ・カワラヒワ・モズ・ホオジロ・ムクドリやアオサギ・ダイサギ・カルガ・モコガモ・ウ等々もその数に入れて観察して当然です。



ジョウビタキ(♂)



ジョウビタキ(♀)



カシラダカ



ヤマガラ



アカハラ



シロハラ



ツグミ



シメ



オオジュリン



アトリ



オカヨシガモ(第1調整池)



オナガガモ(第1調整池)

[第1回から第6回の「鳥見の記」](#)で掲載した鳥たちのほとんどが、冬に向かうこれからのシーズンに観察できます。散策の途中にゆっくり立ち止まって、どんな木の実をついばむのか？ 枯葉を蹴散らし虫を食べるのか？ また枝や地上から飛び立つ時の広げた両翼の美しさを見届けましょう。

きっと何かを発見できる「新たな散策」に変わるでしょう・・・

次回はもう少しつれづれる(?)ように頑張ります。乞うご期待！！

3丁目のバーダー・サトー 佐藤 健三